

社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣良次

2013. 12
No.244

『ホウレンソウ(報告・連絡・相談)』は命です

矢野先生にご指導いただいた言葉です。

「イナテックの社員さんはじめで、素直な人たちが多いが『ホウレンソウ』がへたくそです」とアドバイスをいただきました。

ホウレンソウは、人間で言う血液のようなもので血液が通じなくなったら命を落とします。血液の流れが止まれば死に至ります。それだけ会社(イナテック)にとって重要なものなのです。

ホウレンソウ上手は、仕事上手。ここで言うホウレンソウ上手というのは、常に上司に対して

報告することにより上司とベクトルが合い、仕事が早くできるということです。

また、報告するということは「上司と夢を共有することにもつながります。つまり問題点を共有化し、未来に向けてお互いの実力を知り、将来に向けてのロードマップが常にメンテナン・スされながら形成されていくということです。

Q 貴方のお客様は誰ですか？

Ans それは上司です！

ホウレンソウは、上司に自分を理解してもらう手段であり、また自分を売り込む手段なんです。だから『仕事のへたな人』は、ホウレンソウをしない人になってしまうのです。

つまり、社長と“夢”を共有できない限り、お互いの存在はありえないし、会社として成り立たなくなってしまうです。

どんな事(昨日誰と会った、どこへ行った、どんな話をした、何を食べた etc)でも報告し、社長・上司の意思・感想・判断等を仰ぎ、ベクトルを合わせ、方向修正をしながら“夢”を共有するということです。

社長や上司も完璧ではありません。より多くの“報告”という情報を整理することによって問題を早く解決することができるし、会社の方向

性を間違いない方向へ進めることが出来るのです。

矢野先生のアドバイスを真摯に受け止め、気持ちの良いイナテックにしようではありませんか。

感性の議論ではなく

科学的思考で！

これはダイヤモンドの2013年11月23日号の櫻井よしこ氏の記事から感じたことです。

原発の駄目さ加減を象徴する福島第一原発の汚染水のことです。

福島基準『汚染水を海に放出する基準』

・ セシウム 1ベクレル/ℓ以下

・ 放射性物質 25ベクレル/ℓ以下

そして日本の飲料水

『ペットボトルで売られている飲料水の基準』

・ セシウム 10ベクレル/ℓ以下

・ 平均的な人間の尿に含まれるカリウムからの自然放射能 50ベクレル/リットル

以上の比較で分かるように、福島基準は非科学的ですよ、ということですが。

このことを「ニューズウィーク日本版」が「日本のメディアはなぜ論理的かつ科学的な報道が出来ないのかと、紙面上で批判しています。

国際社会では原発から出る汚染水は、ALPS（多核種除去設備）で放射性物質を取り除き、残るトリチウムを十分に希釈して海に放出している。なぜ、日本はそれが出来ないのかと、「ニューズウィーク紙」は言っている。

これから学ばなければならないことは、事実を事実として科学的思考で問題解決をしなければならぬことです。今取り組んでいる、

“TPM”がまさしくデータを証明するそのものなのです。

決して“感情”や“うわさ”“人の話”という非科学的感情の議論にはならないよう気を付けねばなりません。

そして、より正しい情報を得るための努力と、理解できる能力を身に付けなければならぬということですが。

このように海外からも指摘されている通り、今の日本の報道には冷静に判断できる力をつけ

ていかないと、日本国民が大変間違った方向に進んでしまう危険があるからです。

イナテックの社員の皆さんもTPMを深化させ、学んで、『科学的思考』を身に付けていただき、いい仕事、いい生活、いい日本社会にしようではありませんか。まだ、日本は捨てたものではありません。

幸福度世界一の国をめざして！